

## 2018年度ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)養成事業報告

HPSは英国で誕生した病児や障害児が治療で感じる苦痛やストレス、不安を軽減するために「遊びの力」を用いて支援する専門職です。本学では日本で唯一HPS養成教育を実施し、2018年度も講座を開講しました。

### ■HPS養成講座

2018年度HPS養成講座(10月～3月開講)は応募者23名のうち10名を、HPS養成週末講座(7月～6月開講)は応募者23名のうち9名を受講生として迎えました。両講座は短大部初ベンチャーであるNPO 法人ホスピタル・プレイ協会に委託し開催されました。

両講座は前期と後期の2期制になっており、講座期間中にはプレイ・プログラムの計画と実施、小児療養環境改善への取り組みなどを通じ、学びを深めました。英国からは上級HPSであるクレア・ハーディ氏を講師に迎え、専門的な実践に基づくHPSに必要な知識と技術を学びました。米国から来日のチャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)のコートニー・モーランド氏ほか4名も講義に参加され

ました。



HPS養成講座

### ■HPS国際シンポジウム

1月26日に短期大学部において第11回HPS国際シンポジウムを開催しました。「夢を持って生きること」をテーマにDr. まあや氏の基調講演「子どもたち誰もが取り残されない社会を実現するために」をテーマに阪南中央病院の志水医師、つばさ静岡の佐野相談員、静岡県障害者就労研究会の瀬戸協氏によるラウンドテーブル、HPSによる口頭・ポスター形式での臨床研究発表など多彩なプログラムを展開し、全国各地から163名が参加しました。

続く1月27日にはホスピタル・プレイ

協会主催のHPS第7回スキルアップ講座「3つのホスピタル・プレイー医療的なケアを必要とする子どもと家族が情緒的に安全で安心できる場所を作り出すためにー」を開催しました。この講座では、治療を受ける子どもと若者をエンパワメントする支援方法、重い病気や障害がある子どもへの支援、短大部がホスピタル・プレイ協会および株式会社ウッディジョーと共同開発した木製メディカルキットを用いて子どもたちの安心感を作り出す方法の3つのホスピタル・プレイを146名が学びました。2日間のイベントには福祉・医療・特別支援教育関係者をはじめ、小中学生や一般市民の参加もあり、これまで以上にホスピタル・プレイへの関心の高さが伺えました。



HPS国際シンポジウム